

県立病院機構評価に係る成果指標について

1 これまでの経緯

これまでの病院機構評価は定性的な評価が多く、客観的に成果を測れるような指標が少なかった。そのため、何がどう良くなったのか、どういう成果があったのかということが不明確で分かりにくい評価となっていた。



なるべく客観的に成果を測れるような指標を用いて評価を行う方向へ。



成果指標に対する意見交換（本日举行）
成果指標を固めるのは次回（来年度へ持ち越し）

2 成果指標（目標指標と実績指標）の整理

目標指標：主として病院機構の経営努力により達成できると考えられる指標

例：入院・外来患者数、紹介率・逆紹介率、経常収支比率など。

実績指標：目標値を計画することが難しい、又は目標値の計画が適さない指標。
あるいは、主として外部環境の変化による影響が大きく、病院機構の経営努力が及びにくいと考えられる指標。

例：DMA T・DPAT派遣件数、コロナ感染症患者受入件数など。

3 成果指標の評価方法

目標指標：年度計画値と照らし合わせて評価を行う。

実績指標：実績そのものの経営努力を総合的に評価する。

例：前年度実績との比較により評価